

英国の自動車関連企業が日本の自動車業界向けのビジネスを相次いで強化しようとしている。日本法人を設立するとともに、技術者や営業マンといったスタッフの増員を図るなど、日系企業との取引拡大に向けた動きを積極的に進めている。英国の各企業は、日系メーカーとの関係拡大を図ることにより、日本国内はもとより、中国やインド、東南アジアなど、日系メーカーが事業規模を拡大している地域に対する受注もあわせて獲得することを狙っている。

(嶺井 政敏)

熱処理受託加工の世界大手 屋中に日本法人「ボディコート」であるボディコート・インポートジャパンを設立。日本タリシヨナルは3月、名古屋でのビジネスをスタートした。同社は、自動車や航空機関連産業企業から、低圧浸炭を始めとした高度な熱処理加工を受託する企業で、世界35カ国に1万7千人のスタッフが拠点を擁する。

「今後のビジネス拡大に向けてはアジア地区の存在は不可欠。これを実現さ



エヌコードは日本市場で年間30%の成長を目指す

## 日本向けビジネスを強化

「今後のビジネス拡大に向けてはアジア地区の存在は不可欠。これを実現さ

# 英国企業の動き活発

## 事業規模の拡大／法人設立

## アジア地域も視野に

せる上で日系メーカーの確保が必要だった(ダン・マツカーティール・アジアパシフィック地区マネージングディレクター)ということから、中国、インド、シンガポール、タイに次ぐ拠点を日本に設けることにした。

同社は、2018年までに自動車関連企業の集積地域に10カ所の加工工場を建設していくとともに、すでに工場を持つ中国とインドで日系メーカーからの受注獲得を目指していく考えだ。

「疲労耐久評価のソフトウェアやデータ収集装置の開発・販売を手掛けるエヌコードは、06年5月に日本向けのビジネス拡大を目的に東京に現地法人を立ち上げ、日本国内での事業を開始した。同社はこれまで、自動車を始め航空機や車載関連企業向けに疲労耐久評価関連に特化した製品を投入してきた。

日本では、コンピュータ画面上の解析データと実験部門のデータをウェブ上で組み合わせた時にレポートが作成可能な新たなソフトウェアの販売を行う。同社は07年度で約1億円の売り上げを達成しており、今後は毎年30%程度の成長カーブを描

こうした状況を受けて同社は昨年、日本の駐在事務所を法人に格上げした。今後はさらなる事業規模の拡大を狙っていく方針だが、「売り上げ増を実現させる技術者の確保が課題」と日本法人代表の矢野達夫社長は話す。このため、日本で技術者の採用を積極的に行うとともに、韓国にある同社拠点の技術者も投入して事業の拡大に備えていきたいとしている。

「今後は毎年30%程度の成長カーブを描